

グスマンの聖ドミニコ 2018年



最も親愛なる姉妹の皆さま

私は、私たちの父聖ドミニコの祝日を前にして、聖ドミニコの思いやりと私たちの思いやりについて一緒に内省したいと思います。

聖ドミニコは、祈りと人との関わりを通して、神体験をする中で神の真正さを理解し、ドミニコ会を創立する以前から、すなわち若い時からそれを強く求めています。最初の聖ドミニコの伝記作者であるサホニアのヨルダンは、彼について次のように述べています。「彼は、しばしば神に特別な嘆願をしました。つまり彼は、心を込めて人を世話し、人の救いを見守るために真の愛徳（他の言葉でいつくしみ）を注ぐことを決心しました。主が私たちの救いのために徹底的に自己を引き渡されたように彼は、人の善のために全力を尽くして、真にキリストの一員になろうと考えました。」

「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全なものになりなさい」。(マタイ 5,48) 私たちの父聖ドミニコは、教師であるイエスのこれらの言葉をはっきりと理解していました。思いやりをもつことは、誰かと情熱を共有することを意味します。他者を傷つける者は、自分を傷つけることです。

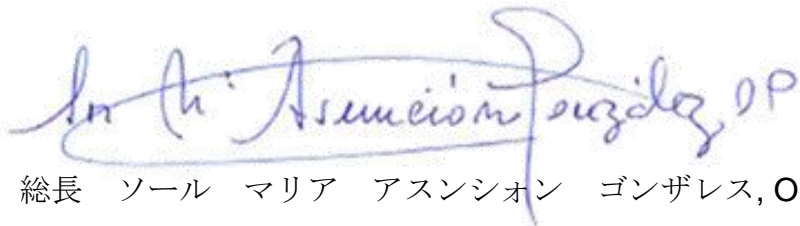
同様に、聖ドミニコの伝記作者のうちのもう一人のペトロ・フェルナンデスは、次のように語っています。「彼の思いやりは、人と一緒に成長することから、他人の悲惨さを前にして、参与しない苦しみを考えることができませんでした。」パレンシアにおける学生時代、多くの人が空腹になったほどの飢餓がはびこっていました。緊急的要請に迫られて、あまりにも多くの悲惨さと必要性を考えているとき、福音を生きるために最も影響を受けた人々の状況を改善するのに役立つ何かをすることに決めました。彼は、必要としていた多くの人のために自分の本を売却し、貧しい人たちに手渡すようにしていました。彼の模範は、貴族、豊かな人、教師を魅了しました。それ以来、援助を惜しまない若い聖ドミニコの寛大さを見ている人たちは、自分の貪欲さに気づきました。実際に思いやりは、彼の生涯の特徴であり、同時に世界へのいつくしみの応答でした。

聖ドミニコは、**真のいつくしみ**に対する緊急的必要性を見ています。時には、最も緊急なことは、飢えた人に食べさせ、失業者に仕事を、移住者に宿を与えることです。これとともに最も大切なことは、それがなければ人としての価値がないし、食べたり、仕事したり、生きれないもの、つまり**私が誰であるか、私がこの世において何のために、誰のためにいるのかを知ることが大事**です。一言で言えば私たち皆は、神の子ですが、そのことを知り、その関りを育て、そしてそこに生きることが必要です。それを楽しむことなく、また神とすべての人を含む家族の意識がないなら、神の孤児として生きることです。それは、しばしば生活を苦痛にさせ、ときには生きる意義を奪い取ります。このような御父の体験と、神の子である兄弟の互いの関りの要請から、真の真理が生み出され、疎外、排除、絶望に対する正義と平和のための闘いが始まります。いつくしみのない人は、神のいつくしみに気づかないか、あるいはそのいつくしに到達することができません。

聖ドミニコにおける宣教修道女である私たちには、これ以外のメッセージはありません。この神のたまものである宣教することのもう一つの真理として、聖ドミニコが行ったように行うことです。私たちは、神への渇きを感じ、聖書と新聞、祈りと人との関係の中でそれらを一つにして捜し求めました。私たち歩みの中で出会うすべての人、そして彼らがどこにいるのかを探している人に贈り物としてそれを提供しています。あり余っているものを人に与えるのではなく、**私たちが必要とするものを分かち合わなければなりません**。

聖ドミニコの祝日おめでとうございます。

姉妹的抱擁をこめて、



総長 ソール マリア アスンシオン ゴンザレス, O.P.